

自発的教養科目の説明

自発的教養科目の目的

自発的教養科目部門は、学生の自律的な学習能力、及び実践的な能力を涵養し、リベラルアーツの実践を後押しすることを目的とします。

自発的教養科目の内容

自発的教養科目には、「自発的教養（ボランティア活動）」、「自発的教養（実践的研究活動）」、「自発的教養（地域課題実践活動）」、「自発的教養（実践的キャリア形成活動）」の4科目があります。いずれも、学内の教員の指導の下で、次のあらかじめ定められた活動を行い、その活動実績が要件を満たせば、単位が認定されます。

- ・「自発的教養（ボランティア活動）」を履修した場合、「ボランティア活動」（表1）の単位が認定の対象となります。
- ・「自発的教養（実践的研究活動）」を履修した場合、「実践的研究活動」（表2）、もしくは定められた活動以外の「自発的活動」（専攻分野外の研究など）の単位が認定の対象となります。
- ・「自発的教養（地域課題実践活動）」を履修した場合、「地域課題実践活動」（表3）の単位が認定の対象となります。
- ・「自発的教養（実践的キャリア形成活動）」を履修した場合、「実践的キャリア形成活動」（表4）の単位が認定の対象となります。

認定される単位数は、「自発的教養（ボランティア活動）」、「自発的教養（実践的研究活動）」では、30時間程度の活動で2単位、15時間程度の活動で1単位、「自発的教養（地域課題実践活動）」では、30時間以上の活動で2単位です。また、「自発的教養（実践的キャリア形成活動）」では、30時間以上の活動で1単位です。

ただし、この時間数は一応の目安であり、個々の活動に応じて単位認定に必要な活動時間は異なる場合があります。また、定められた活動以外の自発的活動を行う場合は、学期・年度を越えて加算することができます。（例えば、ある年度に15時間の活動を行い、その前の年度に15時間の活動をした場合、合計30時間の活動として申請することができます。）

なお、自発的教養科目の取得単位の上限は、各科目2単位（ただし「自発的教養（実践的キャリア形成活動）」は1単位）の合計7単位です。

自発的教養科目の単位修得に必要な条件

自発的教養科目の単位を取得するためには、いくつかの条件が必要な場合があります。

学外で行う活動で交通費などの経費は、原則として自己負担となります。その他、各活動に必要な条件は下の表1～4に書いてあります。

自発的教養科目履修の手順

- ① 興味を持った活動があったら、以下の表の連絡先にある責任教員に連絡をとってください。
- ② 活動への参加が承認されたら、責任教員の指導に従い、活動を始めてください。

- ③ 活動を終えたら、「自発的教養活動証明書」、および活動内容と活動から何を学んだかをレポートにまとめた「活動報告書」を責任教員に提出してください。
- ④ 責任教員は、「活動報告書」を点検し、活動内容、活動時間等から「活動報告書」が単位認定に足るものだと判断した場合、「自発的教養活動証明書」に署名・捺印します。
- ⑤ 責任教員から「自発的教養活動証明書」、「活動報告書」を受け取り、「自発的教養活動単位申請書」に必要事項を記載し、教務企画課の共通科目担当者に提出してください。
- ⑥ 提出期限は、前期・後期ともにCNSでお知らせします。
- ⑦ 提出された資料に基づき、本学の自発的教養科目部門で総合的に判断し、単位認定が行われます。学生の皆さんは、履修申告をする必要はありません。

表1 ボランティア活動

テーマ・代表者	連絡先（責任教員）説明	単位認定の条件	備考
☆学部新入留学生に対するボランティア活動 ☆伊藤 孝恵 （国際化推進センター）	伊藤 孝恵（国際化推進センター） takaei@yamanashi.ac.jp 学部新入留学生に対する生活上及び勉学上の支援や留学生との交流活動を通じて、国際人としてのボランティア精神や異文化理解、異文化間コミュニケーションスキルの育成を図ることを目指す。	活動時間： 15 時間以上、1 単位 30 時間以上、2 単位	1. オリエンテーション、交流会への出席 2. 留学生との交流活動 3. 活動中かかる実費は個人負担（飲食や娯楽など） 4. 学生保険への加入

表2 実践的研究活動

テーマ・代表者	連絡先（責任教員）説明	単位認定の条件	備考
☆フィールド調査実習 ☆片岡 良太 （生命環境学部）	片岡 良太（地域食物科学科） rkataoka@yamanashi.ac.jp 科学についての興味を喚起し、勉学へのモチベーション維持を目的とし、他大学の公開実習等への参加など、専門的教育・研究に触れる。	実習・事後学習： 30 時間以上、1 単位 60 時間以上、2 単位	1. 活動中の交通費・宿泊費等は自己負担 2. 対人賠償を含む学生保険への加入必須 3. 事後学習（報告会等）は必修
☆ロボコン ☆小谷 信司・寺田 英嗣 （工学部）	小谷 信司（メカトロニクス工学科） kotani@yamanashi.ac.jp ロボコン参加に関わる技術研修、ロボットの開発、製作、大会参加。	実習・講義： 60 時間以上、2 単位	1. 参加人数は 10 名程度に制限 2. ノートパソコンなどは自己負担 3. 主な活動場所：工学部機械工学科、メカトロニクス工学科研究室
☆統合能力型高度技術者養成プロジェクト「学大将」関連の実習 ☆垣尾 省司 （工学部）	垣尾 省司（電気電子工学科） kakio@yamanashi.ac.jp 工学部が設定、運営する学大将プロジェクトのうち、マイハウスプランに属するキャリアハウス、ベンチャーハウスに登録された学生を対象としています。それぞれのハウスでの研究や起業活動を通じて、学生は技術者としての意欲と能力をいっそう伸ばします。活動内容はウェブサイト (http://www.eng.yamanashi.ac.jp/risu/index.html) で紹介している。 具体的な単位認定の基準・手続きは各担当教員に確認してください。	実習・研究： 30 時間以上、2 単位	1. 参加者は活動中の交通費等実費の一部を個人負担する場合有り 2. 学生保険の加入

<p>☆ 地域プロデュース・まちづくり</p> <p>☆ 石井信行 (工学部)</p>	<p>石井信行 (土木環境工学科) nobur32@yamanashi.ac.jp</p> <p>環境学園都市甲府を将来像として掲げ、市民や行政とコラボレーションしながらプロジェクトを立案・実行する活動において、学生は主体的に関わりながら地域プロデュースやまちづくりについて学ぶ。活動状況はウェブサイト (http://www.cec.yamanashi.ac.jp/~nobupdlabo/) で紹介している。</p>	<p>実習・研究： 30 時間以上、2 単位</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 活動中の宿泊費等実 費は個人負担 2. 学生保険の加入
<p>☆ SDGs 海外フィールドワーク (FW)</p> <p>☆ 宮本和子 (国際化推進センター)</p>	<p>宮本 和子 (国際化推進センター) mkazuko@yamanashi.ac.jp</p> <p>学内にて作成済みの FW 計画書をもとにカンボジアにて FW を実施する (概ね 10 日間以上)。具体的には以下の 1) ～4) の内容が含まれる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 計画に沿ったフィールド実習や研究の実施 2) カンボジアでの大学生との交流会や各種体験学習 (歴史学習、文化学習など) の実施 3) 帰国後、報告書・レポート・卒業論文等を作成する 4) 学内報告会を行う <p>FW の時期： 下記①②の 2 回から、各学生が事前に教員と相談の上、決定する。 ①8～9 月 (4 年生はこの時期のみ) ②2～3 月</p>	<p>実習 (FW)・事後学習： 30 時間以上 (10 日間以上)・2 単位</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「海外で学ぼう GatewayⅢ」を履修し、FW 計画書を作成することを原則とする 2. FW やカンボジア学生等との交流を通訳無しで行える英語力が必須 3. 活動中の交通費・宿泊費等は自己負担 (一部 JASSO などの奨学金を活用できる可能性あり) 4. 対人賠償を含む学生保険、海外旅行保険への加入必須 5. 参加前に本人と保護者の FW 参加同意書の提出が必要 6. 参加人数は①②各 8 名に制限 7. 事後学習 (報告書提出・報告会等) は必修 8. JASSO 短期留学「カンボジアのグローバルヘルス課題解決に取り組む共同フィールドワーク」に参加する学生の必修科目

表 3 地域課題実践活動

テーマ・代表者	連絡先 (責任教員) 説明	単位認定の条件	備考
<p>☆ まちづくりの実践</p> <p>☆ 大山 勲 (生命環境学部)</p>	<p>大山 勲 (地域社会システム学科) ooyama@yamanashi.ac.jp</p> <p>本実習では、地域の住民・行政・企業と協働して、地域資源や課題を発見し、その活かしかたや解決策の検討・実践を行うという一連の自発的活動の体験により、「まちづくり」のセンスと技法を学習する。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる課題解決の実践的能力を身に着ける。グループ作業により体験的に学習する。</p>	<p>事前学習・実習・事後報告： 30 時間以上、2 単位</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和 6 年度の新規募集は行わない。 2. 本テーマは令和 6 年度で終了する予定です。

<p>☆ワインツーリズムの実践</p> <p>☆大山 勲・久本 雅嗣・斉藤史恵</p> <p>(生命環境学部)</p>	<p>大山 勲 (地域社会システム学科)</p> <p>ooyama@yamanashi.ac.jp</p> <p>本実習では、学生の自発的活動として、ワインツーリズムやまなしの運営への参加を通じて、地域資源を活かす地域活性化の取組手法の理解、地域課題や地域資源を発見する調査、実践活動への参加、課題解決策の提案、という一連の流れを体験的に学習する。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる課題解決の実践的能力を身に着ける。</p>	<p>事前学習・実習・事後報告：</p> <p>30 時間以上、2 単位</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 活動中の交通費、宿泊費は個人負担 2. 学生保険の加入 3. 令和 6 年 11 月時点で 20 歳以上が望ましい（参加を制限する条件ではありません） 4. 本テーマは令和 6 年度で終了する予定です。令和 6 年 11 月までのワインツーリズムの実践活動で活動時間 30 時間以上を満たすように活動してください
<p>☆森林の継承と環境保全計画立案</p> <p>☆馬籠 純</p> <p>(生命環境学部)</p>	<p>馬籠 純 (環境科学科)</p> <p>magome@yamanashi.ac.jp</p> <p>本実習では、学生の自発的活動として、ユネスコエコパーク域などの森林管理の先進地域や森林問題発生地域を対象に事例研究を行う。対象地域の現地視察や関連事業への参加により、地域毎の問題点の理解、課題の設定、解決策の検討、計画立案という一連の流れを体験的に学習する。また、グループによる協働作業、議論、情報発信を通じて地域およびグローバルに活躍できる実践的能力を養う。</p>	<p>事前学習・実習・事後報告：</p> <p>30 時間以上、2 単位</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 参加人数は 10 名程度に制限 2. 活動中の交通費、宿泊費は個人負担 3. 学生保険の加入
<p>☆山梨の農業とその発展</p> <p>☆村松 昇</p> <p>(生命環境学部)</p>	<p>村松 昇 (地域食物科学科)</p> <p>nmuramatsu@yamanashi.ac.jp</p> <p>本実習では、学生の自発的活動として、地域における農業への参加というケーススタディを通して、現状と問題点を理解し、課題を設定して解決策を探るという一連の学習により、課題の発見から解決へ至る調査・分析・計画などの技術を習得する。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる実践的能力を身に着ける。グループ作業により体験的に学習する。</p>	<p>事前学習・実習・事後報告：</p> <p>30 時間以上、2 単位</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和 6 年度の新規募集は行わない。
<p>☆エリア放送を活用したコンテンツ作成の実践</p> <p>☆郷 健太郎</p> <p>(工学部)</p>	<p>郷 健太郎 (コンピュータ理工学科)</p> <p>go@yamanashi.ac.jp</p> <p>本実習では、学生の自発的活動として、地域における様々な活動取材してコンテンツを作成するというケーススタディを通して、現状と問題点を理解し、課題を設定して解決策を探るという一連の学習により、課題の発見から解決へ至る調査・分析・計画・提案などの技術を習得する。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる実践的能力を身に着ける。グループ作業により体験的に学習する。</p>	<p>事前学習・実習・事後報告：</p> <p>30 時間以上、2 単位</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和 6 年度の新規募集は行わない 2. 本テーマは令和 6 年度で終了予定です

表 4 実践的キャリア形成活動

テーマ・代表者	連絡先（責任教員）説明	単位認定の条件	備考
☆ 探求と対話 ☆ 岡村 美好・ 小俣 香織 （工学部）	岡村美好（工学部工学科） miyoshi@yamanashi.ac.jp 学生同士の「対話」を通して、自分自身の進路や将来について考える。これにより、思考力やコミュニケーション力を高めるとともに、自分自身の進路を主体的に選択できるようになることを目指す。	週 1 回開催する 「対話の時間」への参加と「振り返りレポート」の提出： 30 時間以上、1 単位	参加人数は 20 名程度とする。